

「コタカ学」実施報告2021

—学祖の言葉を通して大妻の伝統を学ぶ—

A report of "Kotaka Gaku" 2021 : Inheriting Otsuma tradition
through studying the words of the founder, Kotaka Otsuma

中村 邦子¹, 池頭 純子¹, 下坂 智恵¹, 中尾 桂子²,
谷口 新¹, 塚越 恵久子¹, 堀口 美恵子¹, 廣瀬 友久³

¹大妻女子大学短期大学部家政科, ²大妻女子大学短期大学部国文科, ³大妻女子大学短期大学部英文科

Kuniko Nakamura¹, Atsuko Ikegashira¹, Chie Shimosaka¹, Keiko Nakao²,
Shin Taniguchi¹, Ikuko Tsukagoshi¹, Mieko Horiguchi¹, and Tomohisa Hirose³

¹Department of Domestic Science, Otsuma Women's University Junior College Division

²Department of Japanese Language and Literature, Otsuma Women's University Junior College Division

³Department of English Language and Literature, Otsuma Women's University Junior College Division
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：コタカ学，継承，建学の精神，自己実現，考えるヒント

Key words : Kotaka Gaku, Succession, Spirit of foundation, Self-actualization, Hints for thinking

抄録

本短期大学部では、学生が学祖大妻コタカの建学の精神を学ぶことで、多様な生き方の中から自分らしい生き方をみつけ、新時代に対応できる優れた社会人となるために、2020年度入学生より専任教員が担当する「コタカ学」を必修科目として開講した。授業担当者が一部入れ替わり、2021年度も8回全てをオンライン授業で実施して、manabaを介したアンケート結果より、新入生がコタカの教えに結び付けて短期大学部での2年間の学びをどのように捉えたか把握し、今後の教育の方向性を探ろうとした。出席率は96.1~98.8%（2020年度は96.7~99.5%）であり、学生の「コタカ学」に対する学修意欲の高さが窺えた。8回を通した項目の評価点の平均点は4.30~4.92（2020年度は4.19~4.88）（5段階評価）であった。KH Corderにてテキストマイニングを行った結果、全8回分の自由記述から尺度評価の根拠が内容のどの点においてなされたかが概観された。

2021年度もオンライン授業での実施となり「コタカ学」の目標を到達できるか否か危ぶまれたが、結果からは一定以上の成果が得られた。学生からの評価をみると、理解度の高さ、知識獲得の点で他項目よりも高かった。「コタカ学」は短期大学部の各学科・専攻の内容のオムニバス講義であるが、学生はどの学科・専攻の話題からも示唆が得られたとしており、専門が異なる8名の教員が担当する「コタカ学」が学生にとって意義のある科目であると考えられた。入学したばかりの学生にとって、学祖の言と理念を学ぶことは、大妻での学びを認識し、2年間の目標を掲げることにつながることから、本授業の到達目標を十分に達成できたと考えられ、「コタカ学」で学んだコタカの含蓄に富む言葉が、学生の今後の人生において重要な指針となることを十分に期待し得る。

1. 結論

本短期大学部では、2020年度入学生より専任教員が担当する「コタカ学」を全学共通科目基礎科目区分「I女性とキャンパスライフ」に必修科目

として開講した。この授業では、学生が多様な生き方の中から自分らしい生き方をみつけ、新時代に対応できる優れた社会人となることをねらいとする。この学修目的を達成するために、授業担当

者間で検討し、コタカの言葉を教育上の基本的な指針とし、また、時代の進展を鑑みて、現代の学生が共感・理解できるような学修内容に配慮すべく実施内容を決定した。

「コタカ学」では、学祖大妻コタカの言葉から建学の精神を学ぶことで、恥ずべきことは何かを知り、他者とのコミュニケーションをとることができ、自己実現・社会貢献ができる人物となるように「考えるヒント」を提供する。授業では毎回、コタカの日々の語録をまとめた『コタカ先生からの言葉』『創業者大妻コタカ先生言行録^[1]』中より2つ以上の言葉を選択して伝達した。入学前の学生には、コタカについて書かれた本^[2-4]の中から『教への道をひとすじに 大妻コタカ物語』が学院より配布されており、コタカの生い立ちや歴史の内容は重複すると考えたためである。

「コタカ学」について、manaba（クラウド型教育支援システム）によるアンケート調査の結果から、学生が本短期大学部での2年間の学びをどのように捉えたかを把握し、今後の短期大学部の教育の方向性を探ろうとした。2020年度^[5]に続き、第2回目を実施した結果について報告する。

2. 方法

2.1. 対象

対象学生は、2021年度4月に本短期大学部に入学した1年生で、家政科家政専攻（短家）64名

(25.1%)・生活総合ビジネス専攻（短ビジ）56名(22.0%)・食物栄養専攻（短食栄）75名(29.4%)、国文科（短国）31名(12.2%)、英文科（短英）29名(11.4%)の合計255名である。

2.2. 調査方法

授業内容及びオンライン授業の形態は、表1に示した。8名の教員は専門が異なるため、各テーマに係る大妻コタカからの言葉を2つ以上授業内容に加えることを共通ルールとした。2021年4月15日～6月3日の計8回実施し、manabaによるアンケートの提出を1週間後とした。アンケートの項目は表2に示した通りでQ1～Q5の5項目については、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階評価とし、Q6については、自由記述とした。Q1～Q6全ての項目を必須回答とした。

2.3. 分析方法

Q1～Q5のデータ解析には、統計解析用ソフトIBM SPSS Statistics Ver 22 for Windowsを用い、各アンケート項目について、単純集計、項目間のクロス集計を行い、 χ^2 検定により有意差を判定した。

Q6の自由記述については、全8回分の自由記述をテキストマイニング^[6]による分析対象のデータとしてKH Corderを用いて多変量解析^[7]を行った。

表1. 授業内容及びオンライン授業の形態

回数	授 業 内 容	オンライン授業の形態	授業担当者
1回	授業内容のオリエンテーション-輝く女性になるために- 食事を楽しむ [人の和/強く正しくにこやかに]	音声付PPT動画	下坂 智恵
2回	心と身体の健康づくり [みんな美しく/社会のために 大きく貢献させていただきます]	音声付PPT動画	堀口 美恵子
3回	グローバルな学び [失敗すればそれが1つの体験になります/学ぶとは]	音声付PPT動画	池頭 純子
4回	読み手を考えた表現 [隣を愛する]	テキスト(教材)提示	中尾 桂子
5回	英語とリテラシー [静思の時/真の学問]	テキスト(教材)提示	廣瀬 友久
6回	栄養バランスの大切さ [塩のごとく/長所と短所]	音声付PPT動画	塚越 恵久子
7回	住まいの温故知新 [感謝の生活]	音声付きテキスト(教材) 提示	谷口 新
8回	服は人なり [静かな実行家に/いつでもどこでも何からでも学べ]	音声付PPT動画と動画配 信	中村 邦子

[] : 当該テーマに係る大妻コタカからの言葉, PPT: PowerPoint.

表 2. アンケート項目

Q1. 今日の話は理解できましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q2. 今日のテーマは興味・関心がもてましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q3. 今日の話聞いて新しい知識が得られましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q4. 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q5. 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q6. 今日の授業で聞いた「大妻コタカ先生からの言葉」に対して考えたこと・感じたこと等を具体的に記入してください
<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>

3. 結果及び考察

3.1. 各テーマにおける学生の意識

本短期大学の家政科(3専攻)、国文科、英文科の専門が異なる専任教員8名が「コタカ学」を担当し、学生がどのように捉えたかを知るためにアンケート5項目について5段階評価を行った。

オンライン授業での実施のため、アンケートの提出により出席とみなした。出席率は96.1~98.8%と非常に高く、学生の「コタカ学」に対する意欲の高さが示された。

アンケートのQ1 今日の話は理解できましたか、Q2 今日のテーマは興味・関心がもてましたか、Q3 今日の話聞いて新しい知識が得られましたか、

Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか、Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたかの5項目に対する回答結果を表3~表6に示した。8回を通して全体的に平均点が4.30~4.92と高く、ほとんどの学生が「そう思う」、「ややそう思う」と回答し、「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答した者は若干名であった。

「第1回テーマ：食事を楽しむ」は、音声付PPT(Power Point)動画による授業で行った。食事マナーについて理解できるように詳細に記述した43枚のスライドを提示した。平均点をみるとQ3新しい知識が得られ、Q1今日の話は理解できた、Q2興味・関心がもてたという項目の評価が高かった。

「第2回テーマ：心と身体の健康づくり」は、音声付PPT動画で行った。心と身体の健康づくりについて理解を深め、コタカ言葉から心と身体の健康や幸福について考えるヒントを得ることを目標とした。Q1話を理解できたという項目の評価が高く、Q2興味・関心がもて、Q3新しい知識が得られたという項目の得点が高かった。

「第3回テーマ：グローバルな学び」も音声付PPT動画で行った。世界について学ぶ、世界規模で活躍できる学びについて解説し、コタカ言葉「失敗すればそれが1つの体験になります」に対応する英語の諺を紹介した。Q1話は理解できた、Q3新しい知識が得られたという項目の評価が高かった。

「第4回テーマ：読み手を考えた表現」は、読み手にわかりやすく書くことの意義について詳細な資料を提示して学ぶという授業であった。Q3新しい知識が得られ、Q5「考えるヒント」が得られたという項目の評価が高かった。

「第5回テーマ：英語とリテラシー」は、テキスト(教材)提示による授業を行った。コタカ言葉とフランシス・ベーコン、ルネ・デカルトとを関連させながら説明し、英語とリテラシーについて考えさせ、考えるためのヒントを提供した。Q3新しい知識が得られ、Q5「考えるヒント」が得られたという項目の評価が高かった。

「第6回テーマ：栄養バランスの大切さ」は、音声付PPT動画による授業で、「ごもくめし」の書名の由来や食事バランスガイドについて解説を行った。Q1今日の話は理解でき、Q3新しい知識が得られたという項目の得点が高かった。

「第7回テーマ：住まいの温故知新」は、音声付きテキスト(教材)を提示し、コタカの家とサザエさんの家を比較しながら、住まいからみた「感謝の生活」について解説した。Q1話を理解できたという項目の評価が高く、Q2興味・関心が持て、Q3新しい知識が得られたという項目の得点が高かった。「第8回テーマ：服は人なり」は、音声付PPT動画により「大妻コタカ著作集^[8-10]」一覧を示して、和服から洋服へ転換する時代に触れ、おしゃれと身だしなみの違いについて解説した。被服を学ばない学生もボタン付けができるように動画によりボタン付けについて配信した。Q1話を理解でき、Q3新しい知識が得られたという項目の評価が高かった。

第1回から第8回のテーマを通して、出席率、アンケートの平均値が高値であり、学生の評価が高いことが示された。アンケート項目の中でも、Q1話を理解でき、Q3新しい知識が得られたという項目の評価が非常に高いことから、専門が異なる8名の教員が担当する「コタカ学」は学生にとって意義のある科目といえる。

3.2. 各テーマにおける所属別学生の意識

今回実施した8回全てのテーマにおいて、表3～表6に示したように学生からの評価は非常に高い結果であった。そこで、今後の検討課題とすべくさらに詳細な分析を行った。これら8回のテーマについて、学科・専攻別に差がみられるのかを知るために、質問項目と学科・専攻間のクロス集計を行い、 χ^2 検定により有意差を判定した。

(1) Q1 今日の話は理解できましたか

Q1の質問に対する学科・専攻別の回答を図1に示した。この設問では、学科・専攻間に有意な差はみられなかったが、全体で見ると、「そう思う」とした割合が高かったのは、「第1回テーマ：食事を楽しむ」が87%、「第8回テーマ：服は人なり」の84%であった。学科・専攻別で見ると、「そう思う」としたのは、短家と短ビジが高く、短国は低かった。

(2) Q2 今日のテーマは興味・関心がもてましたか

Q2の質問に対する回答を図2に示した。有意な差がみられたのは「第3回テーマ：グローバルな学び」($P<0.01$)であった。このテーマで「そう思う」とした割合が高かったのは短英であり、低か

ったのは短国であった。その他の回では、有意な差はみられなかったが、短国が全体的に「そう思う」の割合が低かった。

(3) Q3 今日話を聞いて新しい知識が得られましたか

Q3の質問に対する回答を図3に示した。「第3回テーマ：グローバルな学び」($P<0.01$)、「第4回テーマ：読み手を考えた表現」($P<0.05$)に有意な差がみられた。これらの設問で「そう思う」とした割合が高かったのは、第3回テーマでは短英、第4回テーマでは短家であり、割合が低かったのは、第3回・第4回ともに短国であった。

(4) Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか

Q4の質問に対する回答を図4に示した。「第3回テーマ：グローバルな学び」($P<0.05$)、「第7回テーマ：住まいの温故知新」($P<0.001$)に有意な差がみられた。これら有意な差がみられた項目で「そう思う」とした割合が高かったのは短家であり、低かったのは、短食栄と短国であった。

(5) Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

Q5の質問に対する回答を図5に示した。「第7回テーマ：住まいの温故知新」($P<0.05$)で有意な差がみられた。「そう思う」とした割合が最も高かったのは短家で82%であり、低かったのは、短国の60%であった。

(6) Q6 自由記述欄には、「強い意志をしっかりと持ち、協調性を大事にして、学生生活を過ごしていきたい」「コタカ先生のお言葉から、自分の意識次第で日常からどれだけ知識を得られるかが変わると感じた」など、学習意欲の向上にもつながる前向きな意見が多く記載されていた。

以上より、単純に8回を通して、全体的に「そう思う」とした割合は、短食栄、短国が低くみえる。2020年度も同様の傾向が示されたが、在籍者数の違いも踏まえて標準化するなどにより、より詳細な分析が必要である。次年度以降、継続で検討していきたい。

表3. 「コタカ学」アンケート集計表 (第1回目、第2回目)

【第1回テーマ】食事を楽しむ

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	58	52	63	22	24	219	86.9%	4.87
	A2 ややそう思う	5	4	12	8	3	32	12.7%	
	A3 どちらともいえない	1	0	0	0	0	1	0.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	59	53	62	25	24	223	88.5%	4.86
	A2 ややそう思う	5	2	10	4	3	24	9.5%	
	A3 どちらともいえない	0	1	3	0	0	4	1.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	61	52	71	25	26	235	93.3%	4.92
	A2 ややそう思う	3	4	4	4	1	16	6.3%	
	A3 どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	57	47	60	22	22	208	82.5%	4.78
	A2 ややそう思う	6	8	12	6	4	36	14.3%	
	A3 どちらともいえない	1	1	3	0	0	5	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	1	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
Q5	A1 そう思う	49	37	50	22	20	178	70.6%	4.62
	A2 ややそう思う	12	14	19	5	6	56	22.2%	
	A3 どちらともいえない	3	3	6	2	1	15	6.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	1	0	0	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	1	0	1	0	2	0.8%	
出席		64	56	75	30	27	252	98.8%	255
欠席		0	0	0	1	2	3	1.2%	

【第2回テーマ】心と体の健康づくり

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	56	46	58	19	24	203	82.2%	4.79
	A2 ややそう思う	7	7	14	5	5	38	15.4%	
	A3 どちらともいえない	1	2	1	0	0	4	1.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	1	0	0	1	0.4%	
Q2	A1 そう思う	52	40	57	15	21	185	74.9%	4.70
	A2 ややそう思う	10	12	15	7	8	52	21.1%	
	A3 どちらともいえない	2	2	1	3	0	8	3.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	1	0	0	0	1	0.4%	
Q3	A1 そう思う	52	39	58	12	20	181	73.3%	4.70
	A2 ややそう思う	10	14	15	12	8	59	23.9%	
	A3 どちらともいえない	2	2	0	0	1	5	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	1	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	45	31	54	12	16	158	64.0%	4.52
	A2 ややそう思う	14	20	16	8	7	65	26.3%	
	A3 どちらともいえない	5	3	4	4	5	21	8.5%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	1	0	1	0	2	0.8%	
Q5	A1 そう思う	53	41	55	17	18	184	74.5%	4.66
	A2 ややそう思う	7	11	17	3	8	46	18.6%	
	A3 どちらともいえない	3	3	2	4	2	14	5.7%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	1	2	0.8%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	0	1	0.4%	
出席		64	55	74	25	29	247	96.9%	255
欠席		1	0	1	6	0	8	3.1%	

- Q1 今日の話は、理解できましたか
- Q2 今日のテーマは、興味・関心がもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて、新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについて、もっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的に見て、今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

表4. 「コタカ学」アンケート集計表（第3回目、第4回目）

【第3回テーマ】 グローバルな学び

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	53	47	57	18	25	200	80.6%	4.78
	A2 ややそう思う	8	7	16	8	4	43	17.3%	
	A3 どちらともいえない	2	1	0	1	0	4	1.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	46	43	51	16	24	180	72.6%	4.67
	A2 ややそう思う	14	11	21	6	4	56	22.6%	
	A3 どちらともいえない	3	1	0	4	1	9	3.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	2	0	3	1.2%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	53	45	59	18	25	200	80.6%	4.76
	A2 ややそう思う	6	9	14	7	3	39	15.7%	
	A3 どちらともいえない	4	1	0	1	1	7	2.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	2	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	44	35	46	15	19	159	64.1%	4.50
	A2 ややそう思う	12	17	22	7	4	62	25.0%	
	A3 どちらともいえない	6	3	4	2	5	20	8.1%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	1	4	1	7	2.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	51	41	52	16	21	181	73.0%	4.69
	A2 ややそう思う	11	12	19	8	7	57	23.0%	
	A3 どちらともいえない	1	2	2	3	1	9	3.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
出席		63	55	73	28	29	248	97.3%	255
欠席		1	1	2	3	0	7	2.7%	

【第4回テーマ】 読み手を考えた表現

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	49	43	51	16	22	181	71.8%	4.69
	A2 ややそう思う	14	12	22	12	6	66	26.2%	
	A3 どちらともいえない	1	1	1	1	0	4	1.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	52	40	54	20	21	187	74.2%	4.68
	A2 ややそう思う	9	13	17	6	6	51	20.2%	
	A3 どちらともいえない	3	3	3	3	1	13	5.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	58	40	61	20	22	201	79.8%	4.77
	A2 ややそう思う	5	16	12	7	6	46	18.3%	
	A3 どちらともいえない	1	0	1	2	0	4	1.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	48	34	47	19	17	165	65.5%	4.53
	A2 ややそう思う	12	15	21	5	9	62	24.6%	
	A3 どちらともいえない	3	6	6	3	1	19	7.5%	
	A4 あまりそう思わない	1	1	0	2	2	6	2.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	54	39	59	19	20	191	75.8%	4.69
	A2 ややそう思う	6	14	13	8	5	46	18.3%	
	A3 どちらともいえない	4	2	2	2	3	13	5.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	1	0	0	0	1	0.4%	
出席		64	56	74	29	29	252	98.8%	255
欠席		0	0	1	2	0	3	1.2%	

- Q1 今日の話は、理解できましたか
- Q2 今日のテーマは、興味・関心がもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて、新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについて、もっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的に見て、今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

表 5. 「コタカ学」アンケート集計表 (第 5 回目、第 6 回目)

【第5回テーマ】英語とリテラシー

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	40	38	38	13	19	148	60.4%	4.50
	A2 ややそう思う	16	15	28	14	5	78	31.8%	
	A3 どちらともいえない	3	2	3	0	4	12	4.9%	
	A4 あまりそう思わない	1	1	4	1	0	7	2.9%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	40	33	41	14	18	146	59.6%	4.50
	A2 ややそう思う	14	21	26	11	8	80	32.7%	
	A3 どちらともいえない	4	2	5	2	1	14	5.7%	
	A4 あまりそう思わない	2	0	1	1	1	5	2.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	45	41	46	15	16	163	66.5%	4.59
	A2 ややそう思う	11	12	23	10	9	65	26.5%	
	A3 どちらともいえない	4	3	3	3	2	15	6.1%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	0	1	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	32	31	35	13	14	125	51.0%	4.30
	A2 ややそう思う	19	16	25	9	10	79	32.2%	
	A3 どちらともいえない	8	8	11	2	3	32	13.1%	
	A4 あまりそう思わない	1	1	1	4	1	8	3.3%	
	A5 そう思わない	0	0	1	0	0	1	0.4%	
Q5	A1 そう思う	42	37	42	15	19	155	63.3%	4.55
	A2 ややそう思う	14	18	25	9	6	72	29.4%	
	A3 どちらともいえない	4	1	5	3	3	16	6.5%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	1	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
出席		60	56	73	28	28	245	96.1%	255
欠席		4	0	2	3	1	10	3.9%	

【第6回テーマ】栄養バランスの大切さ

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	52	39	58	24	21	194	78.5%	4.78
	A2 ややそう思う	10	16	15	7	3	51	20.6%	
	A3 どちらともいえない	0	0	1	0	1	2	0.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	51	34	58	21	18	182	73.7%	4.68
	A2 ややそう思う	10	18	15	8	5	56	22.7%	
	A3 どちらともいえない	1	1	1	2	0	5	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	2	0	0	2	4	1.6%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	50	35	56	23	21	185	74.9%	4.73
	A2 ややそう思う	12	18	17	6	4	57	23.1%	
	A3 どちらともいえない	0	2	1	2	0	5	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	46	32	50	18	16	162	65.6%	4.55
	A2 ややそう思う	13	15	22	9	6	65	26.3%	
	A3 どちらともいえない	2	6	2	3	2	15	6.1%	
	A4 あまりそう思わない	1	2	0	1	1	5	2.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	49	38	54	20	19	180	72.9%	4.69
	A2 ややそう思う	12	15	18	9	6	60	24.3%	
	A3 どちらともいえない	1	1	2	1	0	5	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	1	0	1	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
出席		62	55	74	31	25	247	96.9%	255
欠席		2	1	1	0	4	8	3.1%	

- Q1 今日の話は、理解できましたか
- Q2 今日のテーマは、興味・関心がもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて、新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについて、もっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的に見て、今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

表 6. 「コタカ学」アンケート集計表 (第7回目、第8回目)

【第7回テーマ】住まいの温故知新

		短家	短ビジ	短食業	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	57	46	58	22	23	206	82.7%	4.81
	A2 ややそう思う	5	9	14	6	5	39	15.7%	
	A3 どちらともいえない	0	0	1	1	1	3	1.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	52	47	53	22	21	195	78.3%	4.76
	A2 ややそう思う	9	7	19	6	6	47	18.9%	
	A3 どちらともいえない	1	1	1	2	2	7	2.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	53	48	50	21	22	194	77.9%	4.76
	A2 ややそう思う	9	7	22	7	7	52	20.9%	
	A3 どちらともいえない	0	0	1	1	0	2	0.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	49	34	44	18	20	165	66.3%	4.57
	A2 ややそう思う	11	15	27	7	7	67	26.9%	
	A3 どちらともいえない	2	6	2	2	1	13	5.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	3	0	3	1.2%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
Q5	A1 そう思う	51	44	47	18	22	182	73.1%	4.67
	A2 ややそう思う	10	9	24	8	4	55	22.1%	
	A3 どちらともいえない	1	2	2	3	2	10	4.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
出席		62	55	73	30	29	249	97.6%	255
欠席		2	1	2	1	0	6	2.4%	

【第8回テーマ】服は人なり

		短家	短ビジ	短食業	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	57	42	62	22	24	207	83.5%	4.82
	A2 ややそう思う	6	7	13	7	5	38	15.3%	
	A3 どちらともいえない	0	1	0	1	0	2	0.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	51	36	54	22	24	187	75.4%	4.71
	A2 ややそう思う	10	13	20	6	4	53	21.4%	
	A3 どちらともいえない	2	1	1	1	1	6	2.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	2	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	55	36	62	22	25	200	80.6%	4.79
	A2 ややそう思う	7	14	12	7	4	44	17.7%	
	A3 どちらともいえない	1	0	1	1	0	3	1.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	46	33	48	18	21	166	66.9%	4.61
	A2 ややそう思う	16	15	22	10	7	70	28.2%	
	A3 どちらともいえない	1	2	5	1	1	10	4.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	2	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	49	37	57	19	21	183	73.8%	4.68
	A2 ややそう思う	13	11	17	8	6	55	22.2%	
	A3 どちらともいえない	1	2	1	2	1	7	2.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	2	0	2	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	1	1	0.4%	
出席		63	50	75	31	29	248	97.3%	255
欠席		1	6	0	0	0	7	2.7%	

- Q1 今日の話は、理解できましたか
- Q2 今日のテーマは、興味・関心がもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて、新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについて、もっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的に見て、今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

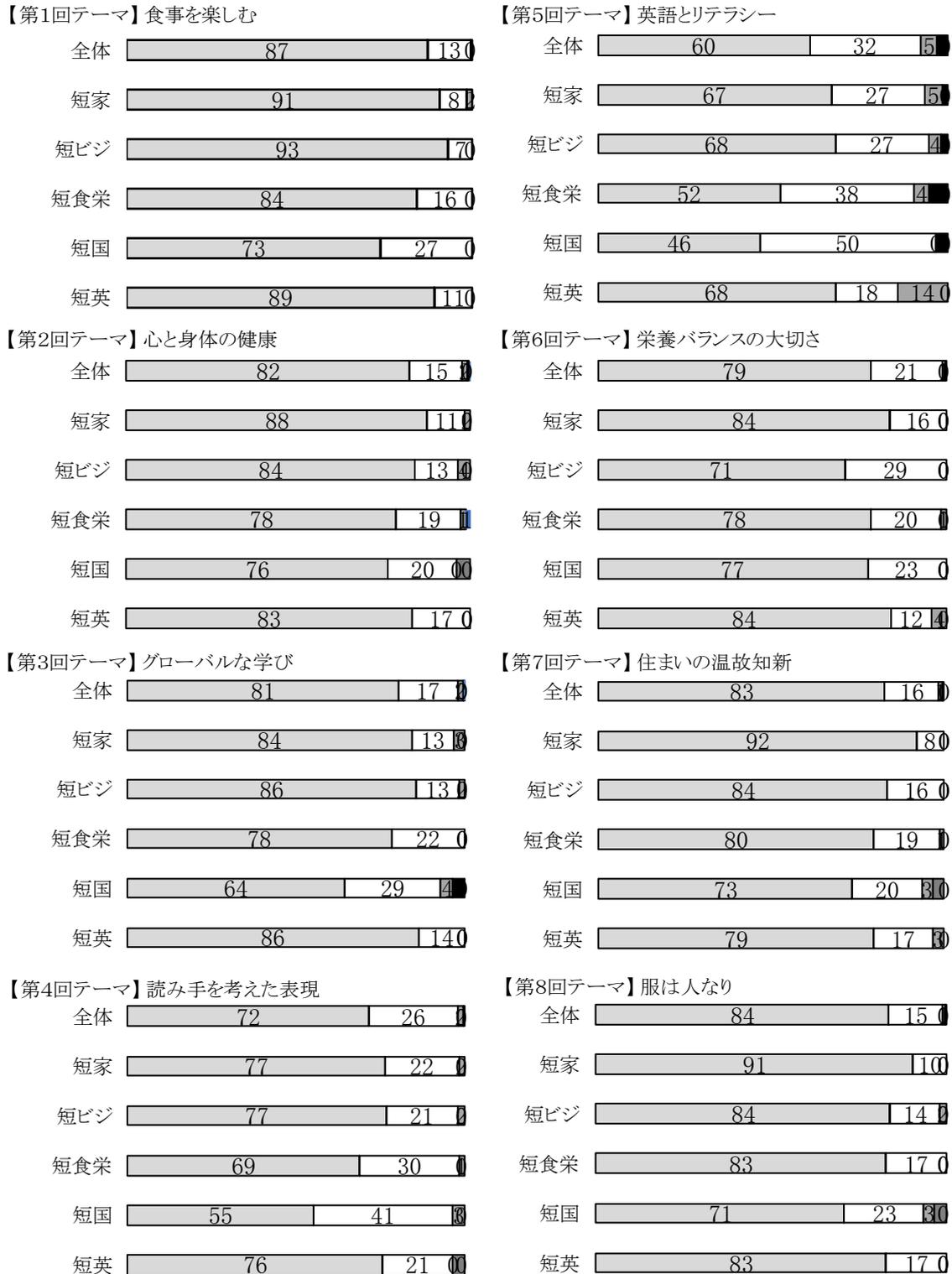


図1. Q1 今日の話は理解できましたか

そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない

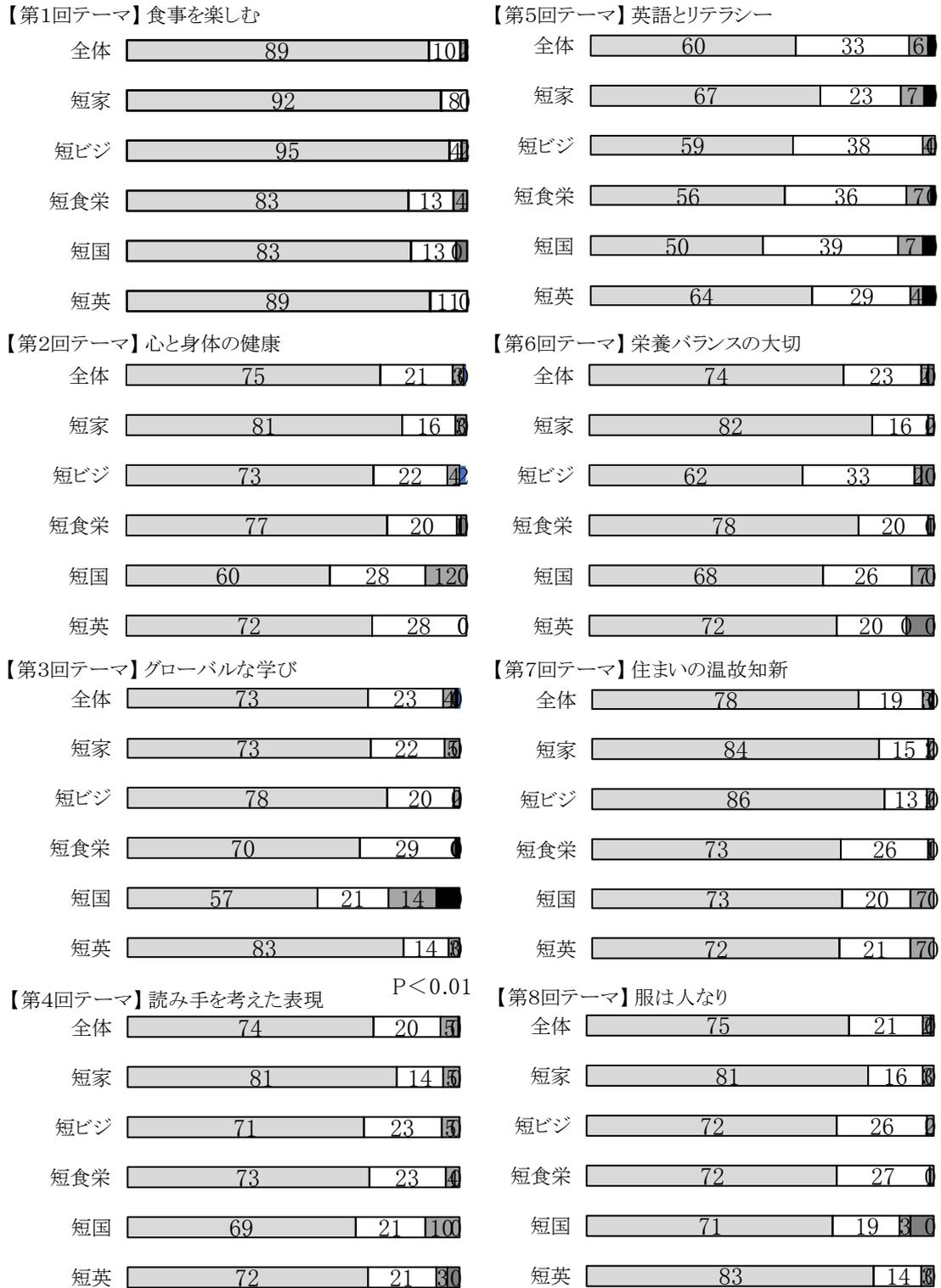


図2. Q2今日のテーマは興味・関心がもてましたか

そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない

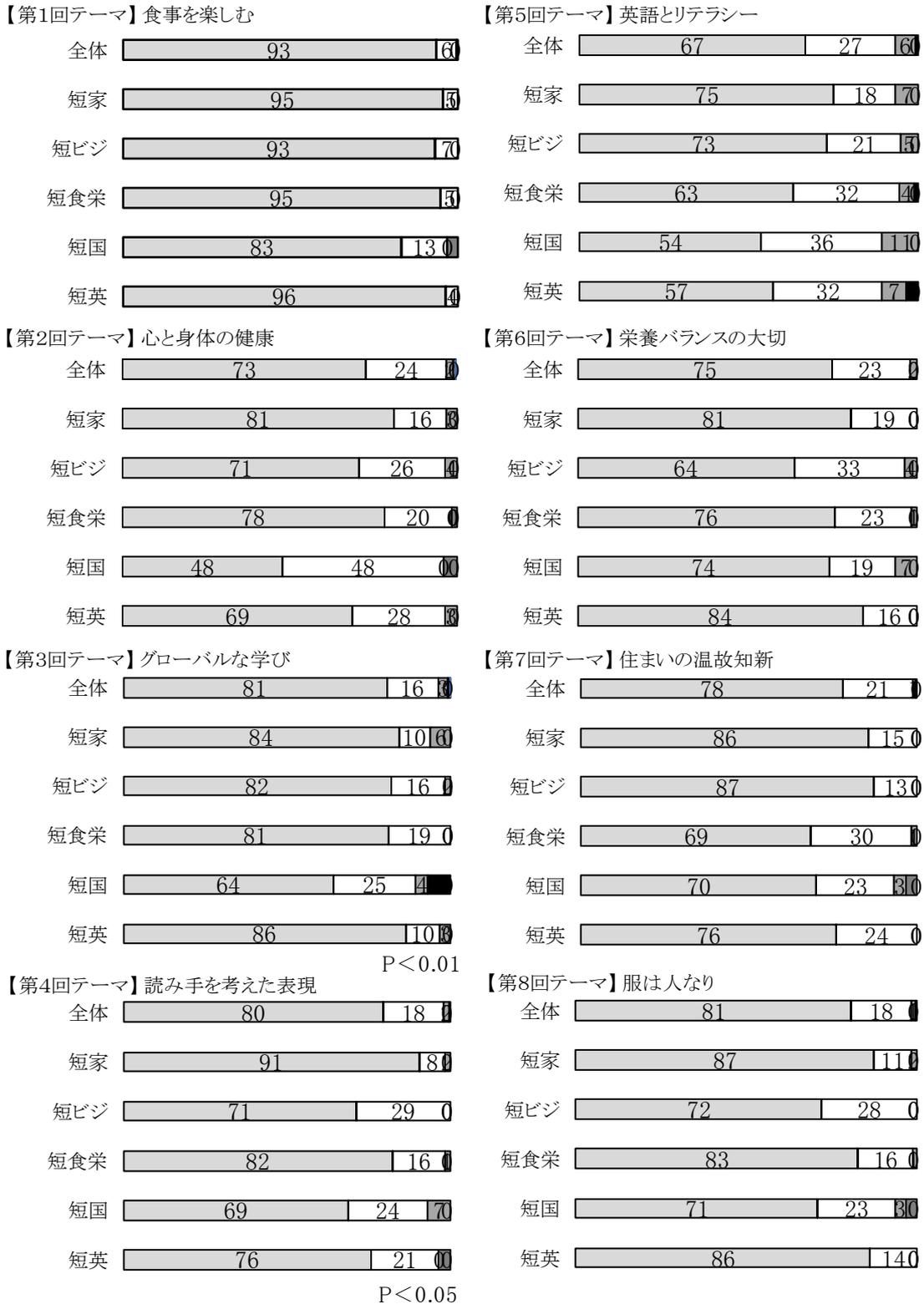


図3. Q3 今日の話聞いて新しい知識が得られましたか

そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない

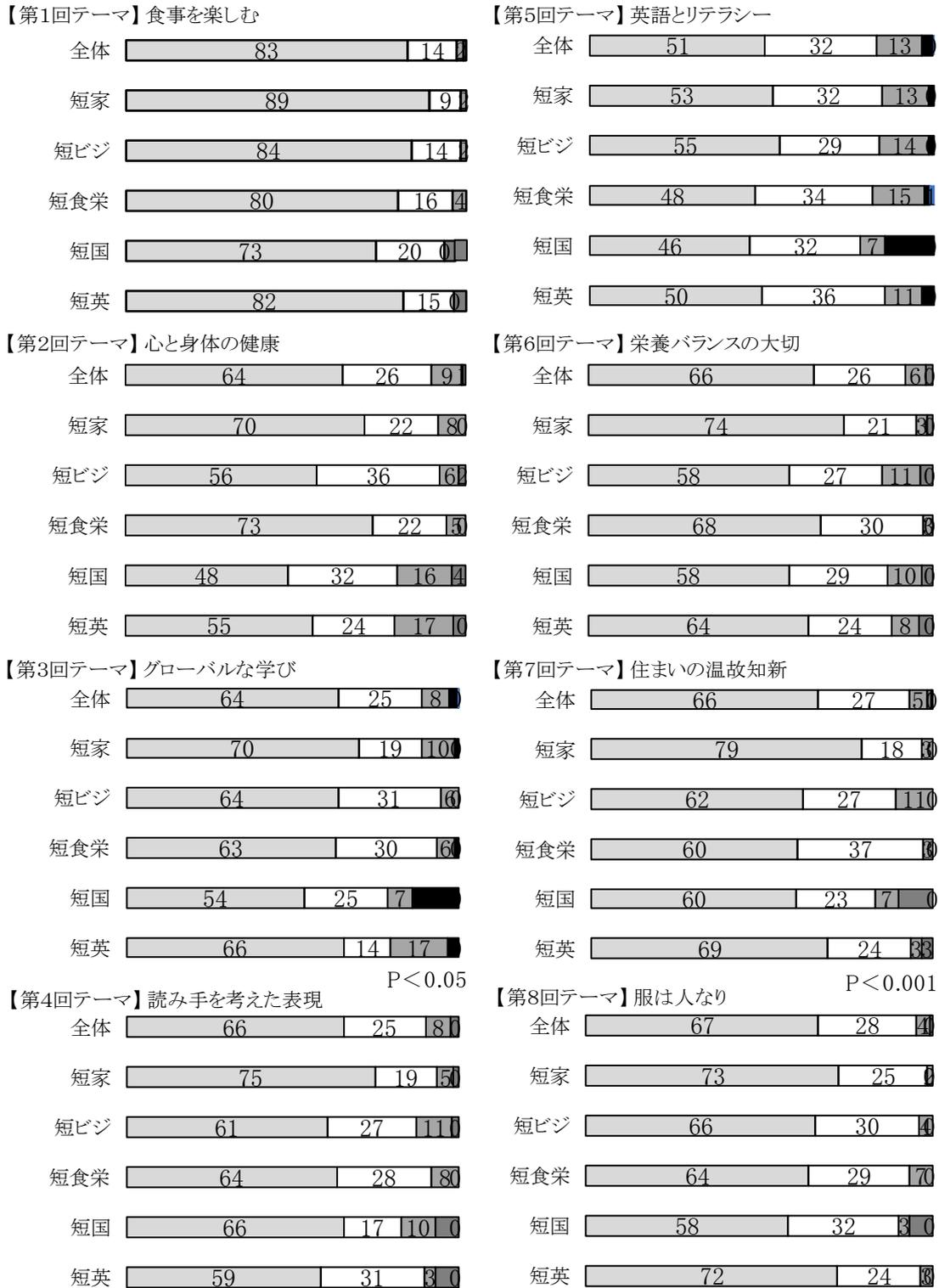
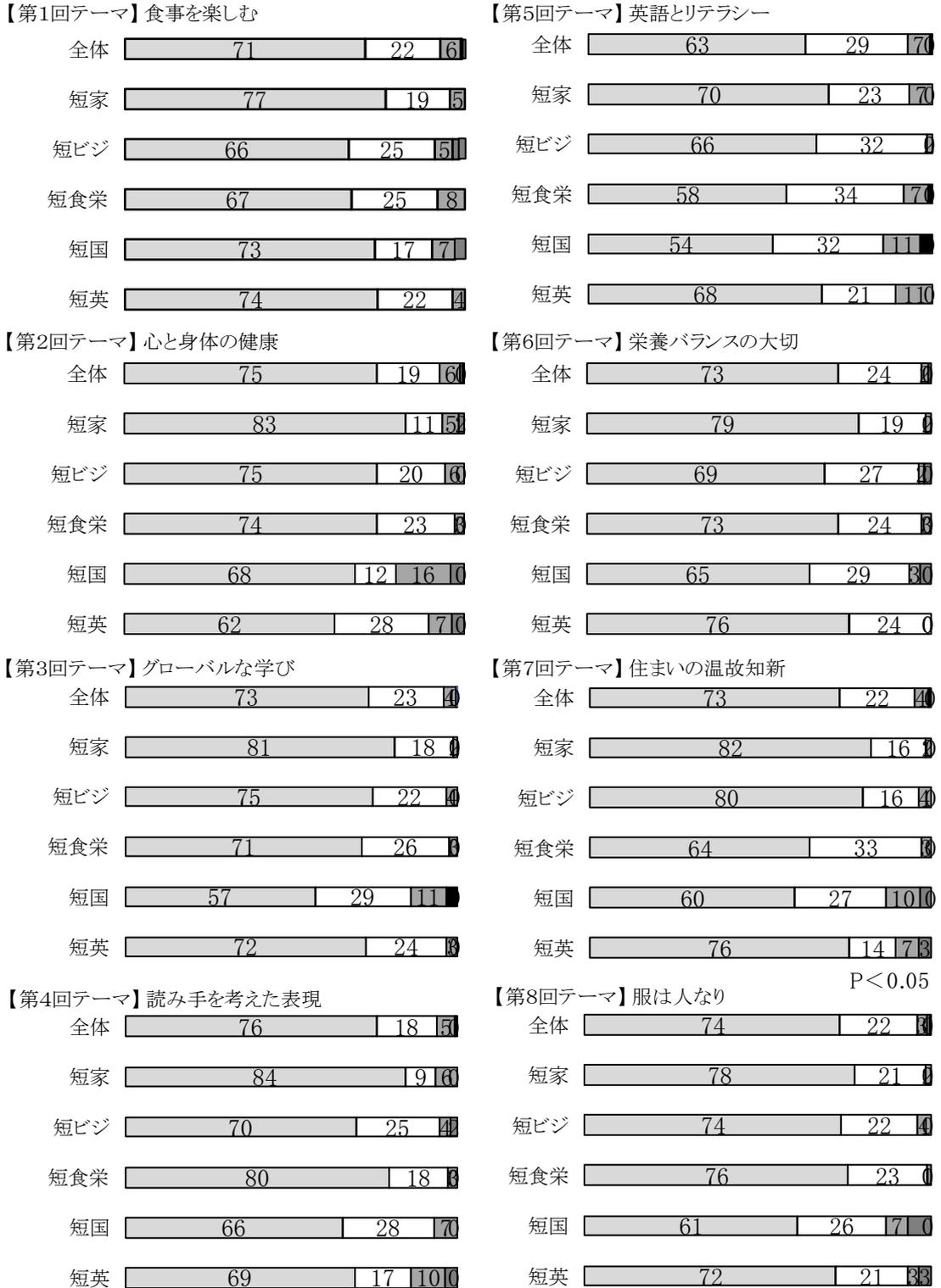


図4. Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたが

そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない



P<0.05

図5. Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない

3.3. 「大妻コタカ先生からの言葉」に対する学生の意識—自由記述の探索的分析から—

本節では、受講後に実施したアンケートの自由記述の問い「Q6 今日の授業で聞いた「大妻コタカ先生からの言葉」に対して考えたこと・感じたこと等を具体的に記入してください」に対して回答された全8回分の自由記述の概要を報告する。

自由記述の分析には、テキスト内容分析のためのフリーソフト、KH Coder⁽¹¹⁾を用い、記述統計量の把握とともに探索的に多変量解析を行い、考察した。計算方法、出力形式はKH Coderの標準設定に基づいている。

(1) 検出された高頻度語彙

自由記述に使用されている高頻度語を、上位10位まで表7に示す。2021年度の全8回の自由記述をすべてまとめた上位10語までの最頻出名詞には「自分」「言葉」「先生」「社会」「周り」「気持ち」「短所」「長所」「マナー」「相手」があがった。昨年2020年度の再頻出名詞10語と比較すると、3語以外は同じであった。2021年度に使用数が変化した3語は「短所」「長所」「マナー」で、これらが2020年度の「身だしなみ」「女性」「印象」の3語と入れ替わっていたが、これは、特定の回のテーマについて記述した数が反映されているものだと考えられるため、内容は考慮せず、その記述に反映された考え方のみに着目すると、昨年同様、今年度も、「自分」を起点として、コタカ先生の言葉を介し、周囲や、広く、「社会」と自身とを関連

付けていると考えられるのではないかと。動作性の高いサ変名詞には、「生活」「感謝」「授業」「失敗」「行動」「意識」「存在」「食事」「努力」「実行」という語が使用されている。2020年度の「仕事」「勉強」「成長」「自立」が、2021年度に「失敗」「存在」「努力」と入れ替わって使用頻度が高くなっている。これは担当者、各回のテーマの微調整、内容の入れ替わりによる変化を反映したものと考えられる。

動詞は昨年と変化なく、「思う」「考える」「感じる」といった思考、知覚を表す動詞と、「学ぶ」「持つ」「生きる」が、昨年度同様、高頻度で用いられており、さらに、「できる」「忘れる」を合わせて考えると、学生が、各テーマの内容に対して思考し、在学中の注意や抱負につながる行動に言及する様子が見えてくる。

以上、高頻度語の概観から、学生の自由記述には、「コタカ先生の言葉」や各回のテーマに関連した学びのポイントを契機として、自らを振り返り、理想とする生き方について自分なりに考えたり、思ったりした内容が記述されていると考えられる。担当者とそれに伴う内容の変化もあるが、高頻度語上位5位の使用頻度は昨年同様で変化していない部分が多いと言えることから、内容に入れ替えがあったとしても、それぞれの内容に応じて自分なりに考える姿勢が認められると言え、今後の在学中の学び方への意欲的な姿勢が、昨年通り、示されていると考えられる。

表7. 高頻度語 (全8回分)

頻度順	名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞	
1	自分	1773	生活	707	大切	802	思う	3120
2	言葉	1577	感謝	553	必要	226	考える	938
3	先生	1151	授業	289	大事	219	感じる	684
4	社会	461	失敗	280	健康	206	学ぶ	661
5	周り	330	行動	250	当たり前	189	持つ	409
6	気持ち	286	意識	246	静か	147	聞く	376
7	短所	272	存在	200	重要	120	知る	360
8	長所	247	食事	198	様々	117	生きる	318
9	マナー	245	努力	179	にこやか	114	出来る	263
10	相手	224	実行	175	前向き	106	忘れる	221

types : 5,035 語, tokens : 206,571 語

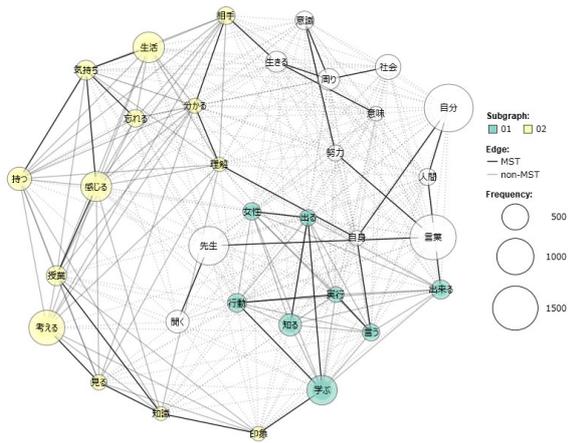


図 8. 高頻度語の共起関係 (8 回共通, Euclid)

い替えれば、学生は、8 回の自由記述で、各テーマの内容、建学の精神、自分自身の 3 つを関連付けるとともに、在学中の抱負や注意点として自戒したい事柄を記述していたと考えられる。

以上、自由記述を探索的に分析した結果から、「コタカ学」を通して建学の精神を学び、その学びを、各回の具体的な内容に沿って自ら振り返り、さらに、在学中に、将来の自分の力の実現方法や、理想像を考えようとする姿勢がうかがえると考えられ、建学の精神を土台に伝統を受け継ぐ学びを積み重ねていく下地が、昨年同様、今年度の新入生においても、培われたと考えられる。

学生が、学祖大妻コタカの精神を学ぶことで、各テーマに応じて、または、全テーマ共通で、自身とテーマとを考察し、自らを振り返りながら、将来を積極的に考える様子が確認されたと考える。

4. 要約

「コタカ学」は、2020 年度入学生より、本短期大学部において、全学共通科目基礎科目区分「I 女性とキャンパスライフ」に必修科目として開講されている。専任教員が担当する「コタカ学」は、大妻コタカの言葉から建学の精神を学び、大妻の伝統を継承し、本学で学ぶことの誇りを感じることで学修意欲が形成され、2 年間という短期間の学びを充実して過ごし、自己実現・社会貢献ができるようになることを目標としている。今年度は、授業担当者 8 人のうち 2 人が入れ替わり、8 回全てをオンライン授業で実施し、manaba によるアン

ケート結果から、学生が本短期大学部での 2 年間の学びをどのように捉えたかを把握し、今後の教育の方向性を探ろうとした。

(1) 出席率は 96.1～98.8% (2020 年度は 96.7～99.5%) と高く、学生の「コタカ学」に対する意欲の高さが示された。

(2) アンケート 5 項目の結果から、8 回を通して平均点が 4.30～4.92 (2020 年度は 4.19～4.88) と高く、全体的に「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答したのは若干名であった。

(3) 質問項目と学科・専攻間のクロス集計を行い各テーマによる詳細な分析を行った結果、テーマにより学科・専攻間に有意な差がみられた。単純に 8 回を通して、全体的に「そう思う」とした割合をみると、短食栄、短国 が低く、2020 年度も同様の傾向が示された。在籍者数の違いも踏まえて標準化するなどにより、より詳細な分析が必要である。次年度以降、継続で検討していきたい。

(4) 全 8 回分の自由記述を KH Corder を用いて多変量解析を行った。「コタカ先生の言葉」を契機として自らを振り返り、理想とする生き方について考察した内容が多く記述されていると考えられた。それにより、今年度も、昨年同様、「コタカ学」を通してコタカの建学の精神を学び、自己を振り返ることで将来の自分の実現方法や理想像を在学中に考える下地が培われていると推察された。

学生からは、学習意欲の向上にもつながる前向きな意見が多く得られた。入学したばかりの学生が、「コタカ学」の受講で本学での学びの源を認識し、2 年間の目標を掲げることができたことは非常に意義深く、本授業の到達目標を十分に達成できたと考える。今後も授業内容の改善を重ねながら、大妻コタカの教育理念を現代的な意義として継承し、学び働き続ける自立自存の精神の育成を目指したい。

引用文献

- [1] 大妻コタカ記念会. 創立者大妻コタカ先生言行録 今, あなたへのメッセージ. 大妻コタカ記念会, 2013.
- [2] 北見けんいち. 教える道をひとすじに 大妻コタカ物語. 学校法人大妻学院, 2017.
- [3] 花村邦昭. 大妻コタカ 母の現像. ランダムハウス講談社, 2009.
- [4] 工藤美代子. 三番町のコタカさん. ワック株式会社, 2016.
- [5] 下坂智恵ほか. 「コタカ学」実施報告ー学祖の言葉を通して大妻の伝統を学ぶー. 人間生活文化研究, 2020,30, p.584-601.
- [6] 末吉美喜. テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析. オーム社, 2020.
- [7] 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析. 第2版, ナカニシヤ出版, 2020.
- [8] 大妻学院. 大妻コタカ著作集. URL:<http://www.otsuma.jp/kotaka>, (参照 2020-4-5).
- [9] 大妻女子大学博物館. 大妻学校の原点-裁縫・手芸. 2016.
- [10] 大妻学院. 大妻学院 80 年史. 1989.
- [11] 樋口耕一. KH Coder3.Alpha.17k. URL:<http://kxcoder.net>, (参照 2021-6-20).

Abstract

"Kotaka Gaku", which was started last year as a mandatory subject for first-year students, was held online in 2021 (as in 2020). The aim of this course is to encourage students to develop a clear vision of their future by studying the words of Ostuma Kotaka, the founder of Otsuma Women's University.

This course was taught by eight teachers from different departments. To review the effect of the course on the students, we analyzed questionnaires given to them. The class attendance rate of students was 96.1~98.8% (96.7~99.5%, in 2020), which shows high interest in the course by the students. The questionnaire result, graded on a scale of 1 to 5, returned a score ranging from 4.30~4.92 of the classes (4.19~4.88 in 2020). We used KH Coder to search and analyze students' responses in their questionnaires to indicate what points the students evaluated the classes upon. They evaluated the following two points higher than others: understandability and acquisition of new information.

We have come to the conclusion that "Kotaka Gaku" has a positive effect of encouraging students to think about what to study at Otsuma, and that it's a very important subject for first-year students. The words they study in "Kotaka Gaku" will stay in their minds for the rest of their lives and guide them on their journeys.

(受付日 : 2021 年 9 月 28 日、受理日 : 2021 年 11 月 10 日)

中村 邦子 (なかむら くにこ)

現職 : 大妻女子大学短期大学部家政科専任講師

日本女子大学大学院家政学研究科被服学専攻修士課程修了。
専門は被服構成学, 日本人の体型分析. 衣料サイズに関する研究を行っている。